

地域再生とまちづくり

各都市が目指すものは

<第34回>

3年前の出来事

今から約3年前の14年2月、高崎市「中央銀座通り」のアーケードが大雪により崩落する事故が発生した。

崩落事故から9カ月後の11月、高崎市は「中央銀座通り」を屋台横丁として整備する計画を発表した。屋台横丁として予定されているのは、全長約430mの中央銀座アーケードのうち、崩落区間を含む約110mである。

アーケード整備にあたっては、「昭和の風情を再現したまちづくりにより新たなにぎわいを創出していきたい」との考えのもと、アーケード下の飲食店において高崎産食材を積極的に提供することも

に、飲食店の前に椅子やテーブルを設置して昭和の風情漂う飲食店が集まったまちづくりを進める方針である。

群馬県高崎市・「中央通り」を屋台横丁に整備

元々「中央銀座通り」は、東側を並走する「田町通り」などとともに各種小売店舗が集積する高崎市の中心商業地だった。それが1976年着工、82年開業の上越新幹線に併せて77年に「高島屋高崎店」、82年に駅ビルの「モントレ」が新規出店した。高崎市の中心商業地は、これらの大型店舗と「スズラン百貨店」を結ぶ「慈光通り」へと移り、現在では高崎駅西口至近が高崎市の中心商業地となっている。

こうした変遷を経て現在の「中央銀座通り」は空洞化が著しく、人通りの少ないシャッター街と化して

いた。このアーケード整備事業の予算規模は4億円弱となる見込みで、今年度中には工事に着手し、来年度以降の事業完了を予定している。

また、当該整備事業と併せて、高崎市の主導する空き店舗活用支援補助金



昭和の面影が残る「中央銀座通り」の入り口(南端)



14年2月の大雪でアーケードが崩落した高崎市「中央銀座通り」の現場。屋台横丁として整備する計画だ

昭和の風情を再現 大雪でアーケード崩落

などが活用され、「昭和の風情を再現したまちづくり」が進められる予定である。

駅西口に新大型店も

さらに今年秋頃には、高崎駅西口至近に大型商業施設「高崎オーパ(仮称)」が新規出店予定であり、高崎駅至近の地域は、今後ますます活況を呈することが見込まれている。「中央銀座通り」がかつての繁華性を取り戻すことは考えづらいが、屋台横丁のよつな特色を打ち出した取り組みが今後どのような結果をもたらすか、その動向が注目される。

(日本不動産研究所前橋支所、不動産鑑定士・原孝幸)